

わくわく地域連携教育だより

下関市教育委員会
第9号
令和6年12月16日

下関市教育委員会では、地域連携教育の充実に向けて、「参加とともに参画」というキーワードを掲げ、以下の3つの取組を推進しています。

- ① 「学校・地域連携カリキュラム」の積極的な活用（→たより7号に詳しく記載）
- ② 児童生徒や地域住民を交えた話し合い（熟議）
- ③ 地域学校協働活動推進員による多様な活動

今回は、文関小学校が取り組んでいる「夢熟議」を紹介し、「熟議」の良さをお伝えします。なお、「夢熟議」は、J:COMの「ざQLASS（ざくらす）」という行政施策を紹介する番組に取り上げられましたので、ご覧ください。（右記二次元コードから視聴できます）



動画「ざQLASS」(J:COM)

下関市立文関小学校の「夢熟議」の取組

地域の大人と4～6年生の子供たちが「夢」をテーマに語り合い、今なすべきことや小学校時代に身に付けておきたい力を明確にすることを通じて、表現力を含む学力・体力・生活力等の向上につなげることを目的に、令和4年度から取り組んでいます。

地域から学校運営協議会の各委員、学校支援ボランティア、各自治会代表者、近隣の幼稚園・中学校・諸施設等の多くの関係者が参加されており、児童4～5人のグループに大人が1人加わり、小グループで頭と頭を寄せ合いながら対話を深めています。

持続可能な取組にするために、4年生は「十歳（ととせ）の集い」、6年生は「ドリームマップ」といった総合的な学習の時間の学びの一環として位置付けているのが特徴です。



「夢熟議」を振り返って

今年度の全国学力・学習状況調査で、「夢がある」と回答した児童の割合が、文関小では9割を超えました。右上の写真は、「夢熟議」を終えた後の大人の振り返りの様子です。「子供たちがここまで夢について語れるのがすごい」「子供たちも勉強になるけど、私たちも元気をもらいました」と大変喜ばれていました。「夢熟議」が学校や地域の課題解決に向けた素晴らしい機会となっていることがよく分かりました。

「わくわく地域連携教育だより」は、生涯学習課 HP にもアップしています。
ご意見・ご感想がある方は、以下のメールへお送りください。
shinnai.toshimasa@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

